



# 広安里 第3号

発行 釜山日本人学校  
釜山広域市水営区民樂路 19 番道 11  
TEL 051-753-4166  
FAX 051-756-4851  
<http://user.chollian.net/~pusjpnsc>

## 路地裏探検

釜山日本人学校運営委員長 大西 信樹

この広安里を手にするころは、もう夏休み目前。みんな、1学期を愉しく元気に過ごせたかな。

ところで夏休みに飛行機を利用して旅行をする人もいると思うけど、飛行機の操縦席には何人乗っているか知っているかい？

答えは二人。キャプテンと副操縦士だ。(欧米行きの高距離路線の場合はもう一人乗り込んで交代勤務)でも、今からそれほど遠くない過去のある時期まで、操縦席にはナビゲーター＝飛行士(DC-8 初期型機まで)とエンジニア＝航空機関士(ボーイング 747-400 型機登場まで)と呼ばれる人達も乗っていたんだ。ナビゲーター＝飛行士と言うと耳慣れない言葉に聞こえるけど、上空から目印が見えたり地上の電波が届く陸地の上を飛ぶときは別にして、何も目印のない海の上や雲の中を飛ぶときには、目的地への進路や速度を計算する、専門の航空士の力が必要だったんだ。それが INS という慣性航法装置の開発や新しい航法の導入などによって機械化され、操縦席の中は操縦士と機関士だけになったんだ。(その後航空機関士の仕事も機械に切り替わった)決まったルートを当たり前のように飛んでいるように見える飛行機でも、電波や加速度を計算する機械を使って正しいルートを探りながら飛んでいるんだ。

レベルはぐっと身近になるけど、僕たちの街歩きも同じだね。特に旅行などで見知らぬ街を散策するときは、まずその街の地図を開き、目印となる建物や場所を探し、そこを中心に道がどのように行き交っているかを見て、街の全体像を頭に入れ、それから自分の辿るルートを考えるんだ。

え、当たり前だって？ それじゃ釜山の自宅から日本人学校までの地図を描いてごらん。いつもスクールバスに乗って通っているけど、歩くときの道をちゃんと書けるかな？

地図を描いてもらえば、その人が自分を取り巻く環境(世界)をどのように捉えているのか、とてもよくわかる。同じ2つの地点を結ぶ地図を描いても、人によって方向や目印、全体の配置や距離感がばらばらになることが多いんだ。例えば、ある人は今自分のいるところを起点として紙の真中から地図を描き始める。そこから途中の目印になるお店や建物を記入して、あちこち曲がって進むと、あれあれ、目的地が紙の外にはみ出してしまった。仕方がないから途中から距離感(縮尺)を変えて書き込み、ようやく完成。自分が今いる場所が世界の中心だと考える？人の地図だね。またある人は自分だけにわかるお店や建物を目印にして、しかも東西南北もわからない地図を描く。これじゃあ、他の人には判らない謎の地図だ。

地図を描くには、まず鳥のように上から全体を見て(俯瞰して)、自分の位置と目的地を探し、位置を確認するための目印(建物や場所)と道の構成(基盤目か放射状か地形なりか)を確認し、北を上にして書くことが基本なんだ。そのためにはまず発行されている地図を広げて読んでみるのが大切なんだよ。

地図を見て自分の歩く街の姿を頭の中に一通り入れたら、地図をポケットに入れて町に繰り出そう。古い街ほど路地が複雑に入り組んでいて、思いがけない景色やお店に出会える機会にも恵まれて面白いんだ。路地裏を歩けば、表通りにはない生活の音や臭いが流れていて、その街の生身の姿が感じられたりするんだ。

僕もつい最近ヨーロッパの古い街を訪ねて、その放射状に伸びる入り組んだ路地のおかげで思わぬところに出たり迷ったりを重ねながら、街歩きに夢中になって気分をリフレッシュしてきたところだ。

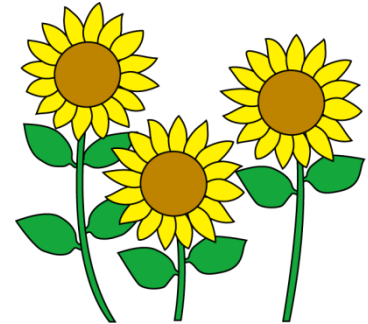
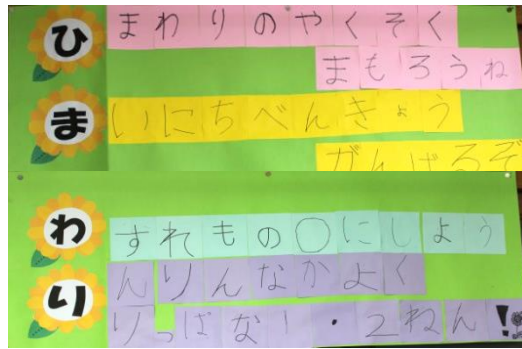
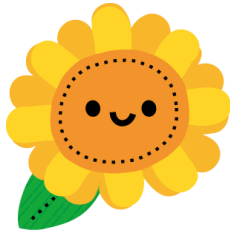
そんな街歩きをしながら、頭の中で地図と方向をつねに思い描き、自分のいる位置を掴みながら進めるようになったら一人前。これが「自律航法」の基礎なんだ。

今ならスマホで自分のいる場所をすぐに割り出せる時代だから、地図なんて自分で書けなくてもいいや、と思う人もいるだろう。だけどモノは試し、一度やってみよう。自分の頭で街を把握し、「体内磁石」を鍛えるのも気持ちがいいものさ。

それにうつつむいてスマホを見ながら歩いていたら、新鮮な景色も目に入らず、街の息吹も感じられないよ。

さあ、夏休みは路地裏探検に出かけてみよう。

# 小学部 1・2年生



4月にみんなで話し合っ  
て決めた、学級目標です。

## ひまわりのやくそく まもろうね

…自分やみんなが気持ちよく生活できるように、  
いつもルールを守ることを心がけています。

## まいにち べんきょう がんばるぞ

…各学年の学習はもちろん、複式学級という利点を生かして学年の枠を超えて互いに  
学び合います。2年生が1年生に優しく教えてあげ、1年生は2年生を見てどんどん学  
びとっています。

## わすれもの 0にしよう

…前の日にしっかり準備し、もし忘れてしまったらすぐに  
連絡帳に書いて忘れ物をなくそうと頑張っています。

## みんななかよく いっぱい 1・2ねん!

…ひまわりのように元気で明るい子どもたち。みんなと  
仲良く、何事にも一生懸命取り組めるクラスをみんなで目指しています。





## 学校と家庭は子育てのベストパートナーに！！

教諭 大根 誠

先日、オープンスクールを実施しました。毎年多くの保護者の方々が来校して下さり、子ども達の生き生きとした姿をご覧いただいています。このオープンスクールの目的は、保護者の皆様に直接学校教育の場面をご覧いただき、本校の教育方針や実際の教育活動についてご理解を深めていただき、信頼関係を構築するということと、集団の中でのお子様の様子をご覧いただき、子ども達の良い点と良くない点の両方を共通認識していくという2点があります。

普段の家庭における子ども達は、保護者と兄弟姉妹のみというような、極めて少人数で、既に人間関係が構築された環境で生活しています。その閉じた関係の中では、子どもの一面だけしか見ることができません。大人の私たちが、家庭における顔、職場での顔、友達と接する時の顔を変えるように、子ども達も家庭では家庭の顔があり、学校では学校の顔があります。私たち教員が見ているのは学校の顔のみで、保護者の皆さんが見ているのは家庭における顔のみということになります。それぞれの場で、問題とする点が異なるため、学校と家庭は緊密に連携をとりながら、協力し、互いに信頼し合いながら子どもを育てていかなければなりません。そういう意味で、学校でおきた問題行動などに関しては家庭に随時連絡をとることにしています。特に素早く対処しないといけないことに関しては、電話なり来校していただくなりということで保護者の皆さんと歩調を合わせて子ども達を育てていくための打ち合わせをすることになります。もちろん、ご家庭から学校に様々な情報をいただくことも多々あります。

オープンスクールや授業参観、様々な行事での様子をご覧いただくとおわかりのように、子ども達は、家庭と学校で異なる行動をしています。特に学校では、社会性が育っているかどうかという点がよく見えます。授業に集中し、積極的に取り組んでいるか、友達と上手に接することができるかなどは家庭ではなかなか見られないことだと思います。集団の中でどのように自己と他者の位置関係を決定していけば気持ちよく過ごせるかという事は、生涯にわたって必要となる力です。どれだけ勉強が出来て成績優秀であっても、人と関わらずに生きていくことは難しく、他者と上手に関わるための力を身につけていかなければいけません。この他者とのかかわりという点では、集団の中でしかその力を見ることができず、主に学校で育ててゆくこととなります。ところが、家庭では見えないということから、学校と家庭で多少の認識のずれが生じ、他者とのかかわりにおけるトラブルが発生した際、学校からのお知らせに、保護者の方がなかなか納得していただけないことがあります。そんなとき私たち教員は、保護者の皆様への説明の仕方や、タイミング、問題行動の把握の仕方など、多くの反省点があり、申し訳ない気持ちになるのですが、粘り強くご説明し納得いただき、学校と家庭で協力し、子ども達を良くしていきたいと考えます。ご家庭においてもその点の考えは同じだと思います。ただ、学校は警察でも裁判所でもないため、残念ながら様々な事象を科学的にきちんと証明した上で子ども達の指導を行っているわけではありません。教師が見ていない場面でおきたトラブルについては、周りにいた子ども達に状況を聞き取ったり、当事者双方から話しを聞くことで状況を把握し、どのようにしたら次に同じトラブルに遭わないか、当事者となった子ども双方を指導しています。保護者の皆様には、学校からの情報提供を、科学的な根拠が存在しない場合でも、信じていただく必要があると思います。学校から保護者の皆様に提供する情報は、複数の職員で吟味し、客観的に妥当であると判断した上で連絡をとっています。その情報に基づき学校と家庭で足並みをそろえて子どもの教育にあたれば、身につく速さの違いこそあれ、どの子も適切な社会性が育っていくものと考えています。

学校と家庭は子育てのベストパートナーにならなければいけません。学校は学校として、保護者の皆様にご理解いただき信頼していただけるよう、家庭は家庭で、学校とがっちり手を組むよう、それぞれが認識していけば、子ども達は逞しく成長していくものと信じています。大切な子ども達のために、今後ともご協力をお願いいたします。